

# 子供写生会報告 龍宝寺

作成者：水遊会 伊藤武夫

平成29年7月24日（月）薄曇り

8時半～受付開始

9時～ 本堂前に集合 注意事項伝達、講師の紹介（伊藤武夫・大泉房子）、  
写生のポイント説明ー写生開始

11時半～12時 作品提出

13時半～萩原輝治講師 審査会30点優秀作品選出

14時～総評作成及び優秀作品のコメント作成

15時終了



萩原輝治（日本美術家連盟会員）



当日はうす曇、少し風があったため、夏にしてはしのぎやすかった。93名が参加し、そのほとんどが初めに集合した本堂前で、本堂あるいはその周辺の花などを描いた。遅れて来た1名は山門付近で描いた。

お寺にあるお花の多くがムクゲ、キョウチクトウ、そしてわずかなコスモスが咲いていた。念のために高さ30cm、花の直径5cmほどのひまわりの苗を

3鉢持参した。描きやすいためか、小さな子供の希望者が殺到し、数名ごとに1鉢のひまわりを描いていた。

[写生] 教育委員会から7名のスタッフがアシストした。伊藤武夫・大泉房子は、子ども達の作品に加筆も含めてアドバイスをした。

[審査会] 優秀賞選出は萩原講師が下記の教育委員会作成のガイドラインに従って行った。

学年	幼-小1	小2	小3	小4	小5	小6-中1	計
作品数	2-16	13	14	17	11	9-1	83
優秀賞	7	4	5	6	4	4	30

[優秀賞作品コメント] 30点の優秀賞選出ポイントを列挙した。目的意識が明確（全体に共通している）、忠実に描く、主題だけでなく周囲にも塗れている、形を正確に捉えている、大胆に捉えている、立体感、色を忠実に捉えている、色を大胆に使っている、遠近感がある、夢を入れている、幻想的に捉えている、描き方に変化、光と陰、主役と脇役を捉えている、優しさが、落ち着いた色、等のキーワードで表現した。優秀作品につけるコメント作文は教育委員会スタッフが作成する。

[所感] 暑さも風のためしのぎやすく、子供たちの写生を一緒に楽しんだ。構造が難しい本堂を描いた子供が多くて独特の捉え方をしていた。鉛筆の下がきは見ると描いていたが絵の具を塗るときに個人差がある。一般的に厚塗りの傾向があり、色の組み合わせがうまくいくと感動的な作品になる。薄塗りはほとんどしていない。講師の加筆は、子供の下がきの線はそのままにして水彩加筆で周囲の脇役を入れたり、影の場所に比較的薄い絵の具でメリハリをつけたりした。

おわりに、子供の意識した視点に感心したこと、作品的には1年生の本堂の色を大胆に使っている厚塗りの作品、6年生による本堂を45度から見た茶色の鉛筆画が見事に対象をつかんでいる作品、顔料インクペンで本堂を正面から捉えた薄塗りの水彩で本堂、周囲の緑を自分で混色してアクセントを付けた作品の3点が印象的でした。（いずれも優秀作品賞に選ばれました。）